

日光国立公園ステップアッププログラム2025 概要版

1 現状分析

(1) 日光国立公園の特徴

- **日本最初の国立公園**の一つ
- **火山群と水環境**が織りなす自然景観(森林、湖、湿原、滝、溪谷等)
- ラムサール条約湿地「奥日光の湿原」など、**世界的にも貴重な自然**
- 世界遺産や皇室ゆかりの施設などの**歴史・文化遺産**も多数
- 歴史ある古湯・秘湯**も多数
- 鉄道・高速道路など**首都圏からのアクセスが良好**(公共交通で約2時間)

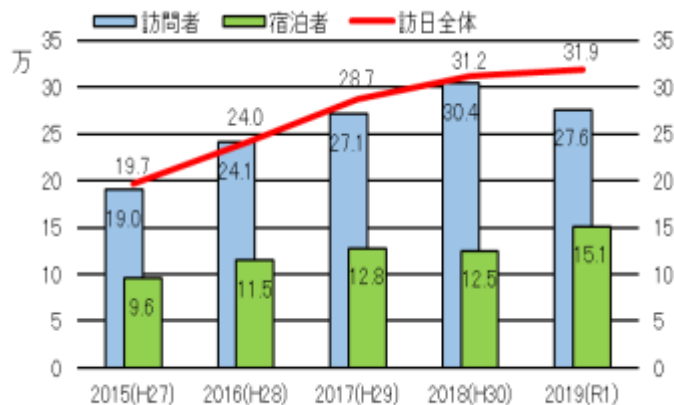
(3) 日光国立公園の課題

- ハード整備、人材育成等による**受入態勢整備**
- 滞在時間延長、宿泊・長期滞在促進による**観光消費額の増加**
- 繁閑平準化のための**閑散期を中心とした誘客の促進**
- 二次交通の充実等による**交通の利便性向上**
- 情報発信・案内力の強化**
- 自然環境・景観の保全**

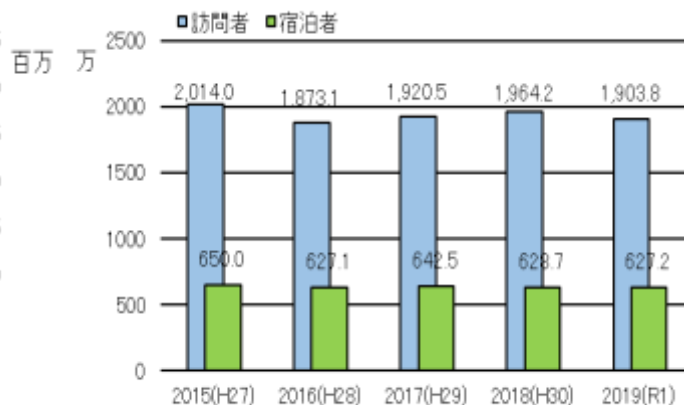
(2) 観光客の状況

- 外国人観光客の伸び率は、ほぼ**訪日外国人全数の伸び率と同等**、日本人観光客は**微減**
- 外国人観光客の**約5割**、日本人観光客の**約7割が日帰り**
- 外国人観光客は、他の国立公園に比べて**欧米豪の割合が高い**
- 夏、紅葉期、連休の**繁忙期に観光客が集中**する反面、**冬期は大幅に観光客数が落ち込む**
- 外国人観光客・日本人ともに**消費が鈍く**、特に**アクティビティ消費が少ない**
- 観光客の**満足度が低下**傾向、特に**日本人の満足度が低い**

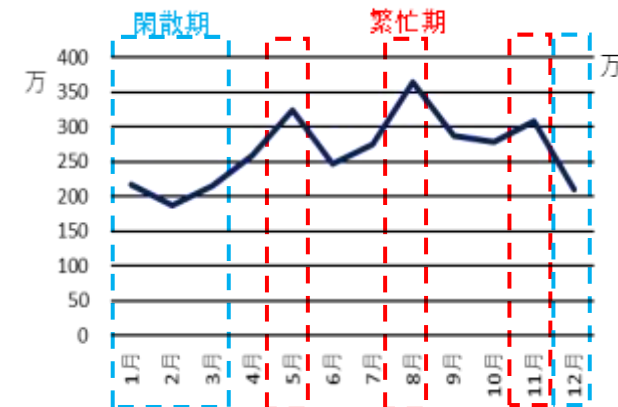
<日光国立公園外国人利用者・宿泊者数の推移>



<日光国立公園観光客入込数・宿泊数の推移>



<2019(R元)年日光国立公園観光客入込数>



2 コンセプトと取組の方向性

(1) 日光国立公園のコンセプト（基本概念）

NIKKO is NIPPON
自然・歴史・文化 美しい「日本」を感じられる
東京圏のプレミアムリゾート

- ・世界に認められた貴重な観光資源
- ・豊富な水資源や日本ならではの自然景観、歴史・文化、温泉
- ・皇族や華族、外国大使にも愛された「プレミアムな魅力」
- ・東京から約2時間の近距離にありながら、都会とは全く違う魅力

(2) 目指す姿と取組の方向性

① **上質で奥深い魅力**を満喫できる国立公園

⇒観光資源の磨き上げ、景観保全、受入態勢整備等により、快適でストレス無くプレミアムな魅力を楽しめる国立公園を目指す。

② **体験・滞在型**の国立公園

⇒エリア間の連携強化、体験メニューの創出、情報発信力・案内機能の強化、交通機関の充実等により、長期滞在・広域周遊しながら自然や文化の本質的な部分まで体験できる国立公園を目指す。

③ **脱炭素・循環型を実現**する国立公園

⇒持続可能な自然環境の保全やCO₂の排出削減などにより、地球環境とも調和し、豊かな自然と共生した国立公園を目指す。

(3) ターゲットとする利用者層

○ **欧米系を中心とした個人旅行者**をメインターゲットとする

○東アジアやASEAN諸国など増加する **アジア市場も開拓**

○消費額増のため、**富裕層**やハネムーン、ファミリー層も誘客

○日本人観光客は、各地域の特色を生かしたテーマ(ワーケーション、ウェルネスツーリズム、スポーツツーリズム等)に沿って誘客を図る

3 目標

(1) 数値目標

観光客1人当たりの消費額増を主な目標とし、新型コロナウイルス感染症収束までの当面の間、外国人観光客に係る数値と観光客・宿泊客数は参考値とする。

日本人観光客1人当たりの消費額:22,921千円(2019)→**28,000円**(2025)

<参考値>

○外国人観光客1人当たりの消費額:37,081円(2019)→**65,000円**(2025)

○観光客入込数・宿泊数は、**新型コロナ流行前の水準への回復**を目指す

入込数:1,904万人、宿泊数628万人/外国人利用者数:28万人、宿泊数:15万人

(2) 質的目標

利便性の向上・おもてなし向上等に取り組み、不満点を解消するほか、観光客が日光国立公園に求める期待値と実際に訪れてからのギャップを無くし、期待感を上回る取組を行うことで、満足度の向上を図る。

4 プロジェクトの実施

(1) 日光国立公園全体での重点取組事項

ア.上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園	イ.体験・滞在型の国立公園	ウ.脱炭素・循環型を実現する国立公園
<p><u>(A) 既存施設再整備と維持管理、上質化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応、ユニバーサルデザイン化等の再整備 ・施設の美化清掃、老朽化・破損した施設の修繕等の実施 ・日本一きれいなトイレを目指す <p><u>(B) 良質な景観の保全</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村で景観計画を策定 ・廃屋の取扱い方針の検討 ・眺望を阻害する樹木等の修景伐採の実施 <p><u>(C) 新しい利用形態や需要への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューツーリズムの促進 ・MICE・ブレジャーの促進 ・ワーケーションの推進 ・キャッシュレス化の推進 ・MaaSの導入 ・バーチャルツアーの実施 <p><u>(D) 人材の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応の強化 ・おもてなし向上 ・自然ガイド認定制度の創出 	<p><u>(A) 宿泊・閑散期誘客につながるコンテンツの強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間や朝の体験コンテンツの造成と磨き上げ ・飲食物産店等の営業時間の延長 ・冬季を中心とした閑散期の誘客促進につながる取組 <p><u>(B) コンテンツの充実と上質化、情報発信の強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験コンテンツ・アクティビティ等の充実と上質化 ・WebサイトやSNS等を活用した個別の情報発信の強化 ・AI等を活用した案内の導入 ・国立公園としての一元的な情報発信 ・アクティビティ等のプラットフォームの整備 <p><u>(C) 連携強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者同士の連携、官民の連携 ・二次交通の充実、交通の利便性の向上 ・モデルコース造成、ロングトレイル・サイクリングツアー等の活用による広域周遊促進 ・ビジターセンター等の窓口で国立公園全域の情報を案内できる態勢を作る 	<p><u>(A) 受益者負担による持続可能な環境保全</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsツアーの創出 ・エコツーリズム推進団体の認定 ・エコツーリズムを通じた自然環境の保全 ・オーバーユースの抑制 <p><u>(B) ルール・マナーの普及啓発と適正利用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園の利用ルール・マナーの普及啓発 ・自然エリアや施設の適正利用を図る <p><u>(C) 脱炭素に向けた取組の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・EV・FCV車の利用促進 ・再生エネルギーの活用 ・EVの利用環境の整備 ・受益者負担による環境保全等の仕組みの検討

(2) 各エリアの取組方針

鬼怒川エリア

温泉と楽しむ手軽な自然体験

鬼怒川・川治温泉

- ・温泉と自然散策を組み合わせた健康体験
- ・温泉地を拠点にした手軽な自然体験

主な取組 ツアープログラム充実、健康になれる温泉地づくり

湯西川・川俣・奥鬼怒

- ・手軽に秘境感を体験できる場として整備

主な取組 遊歩道再整備、自然・文化体験メニュー、ガイドツアー等の充実

日光エリア

水環境と調和した歴史遺産めぐり

世界遺産周辺

- ・歴史・文化体験、自然体験等を中心に磨き上げ
- ・観光客他エリアに周遊させる仕組みづくり

主な取組 環境配慮型観光MaaS導入、渋滞対策、観光案内所等での他エリアの情報発信、JR日光駅へのエレベーター設置

中禅寺湖畔

- ・国際避暑地の歴史や中禅寺湖の自然を体感できる施設整備
- ・多様なプログラムの創出や磨き上げによるアクティビティの整備・拡充

主な取組 国際避暑地記念施設でのユニークメニュー等実施、EVバス導入、ライトアップ奥日光、アウトドアリゾート空間整備

奥日光湯元・光徳

- ・エリア内周遊の充実
- ・冬季を含むアクティビティメニューの拡充

主な取組 アウトドア活動拠点の充実、赤沼自然情報センター機能強化

片品

- ・自然プログラム、周遊プログラムの充実

主な取組 丸沼ダムツアー等のツアー充実、周遊プログラム構築

那須・甲子エリア

山や森とふれあうロイヤルリゾート

那須高原・那須温泉郷

- ・自然体験のための環境整備
- ・周辺のリゾートエリアとの連携

主な取組 野営場再整備、那須VC・那須平成の森FCの機能強化と民間開放、殺生石ライトアップ、アウトドアグッズのレンタル、eバイクレンタサイクル

板室温泉

- ・温泉と自然体験を組み合わせた利用環境整備

主な取組 自然・文化体験、ガイドツアー等の充実

甲子

- ・自然体験のための環境整備と利用促進

主な取組 自然・文化体験、ガイドツアー等の充実

塩原エリア

7色の温泉と渓谷アクティビティ

塩原温泉郷

- ・自然歩道等整備と体験プログラムの充実

主な取組 塩原温泉VCの機能強化、eバイクレンタサイクル実施、ライトアップイベント等の充実

八方ヶ原

- ・ハイキング、アクティビティ利用の検討

主な取組 冬季を含む自然体験メニュー等の充実、スポーツツーリズム推進

(3) 宣伝・誘客の方針

ア. 全体の宣伝方針

- 日光国立公園としての一体的な情報発信
- 「日光」のネームバリューや東京からの近さを活用した宣伝展開
- デジタルマーケティングを積極的に活用

イ. 国内向けの宣伝方針

- 日本人向けに知名度の向上を図る
- アクティビティやツアー等の情報を重点的に発信
- コンシェルジュ等への積極的な情報提供

ウ. 海外向けの宣伝方針

- ファミトリップの実施、海外プロモーション、旅行博でのPR、個別商談会への参加等でafterコロナ期での旅行商品造成や情報発信を促進

5 効果検証

(1) 目標達成率による検証

- 国立公園訪問者アンケート結果により、1人当たりの消費額について検証
- 参考値として、日光国立公園利用者数推計値、日光国立公園周辺宿泊者数の推移を検証

(2) 取組の進捗状況の検証

- 施設整備の進捗について検証
- その他様々な取組の進捗について確認し、進捗状況を検証

(3) 満足度の検証

- 国立公園訪問者アンケート結果により、観光客の満足度について検証
- 不満に思う箇所の意見について精査し、今後の取組に反映

(4) 検証内容の反映

- 効果検証や取組状況を踏まえ、地域協議会・作業部会で前年までの中間評価を実施
- 地域協議会・作業部会での議論を通じて、必要に応じ、ステップアッププログラムを改定